

## 令和4年度 KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会 自己点検評価

### 目的

本委員会の目的は、デジタル社会の「読み・書き・そろばん」である数理・データサイエンス・AI 教育を全学的に普及させ、1 名でも多くの学生に修得させるとともに、意欲ある学生に対して自らの専門分野への応用力および実践力を修得させることにある。

### 構成メンバー

荒平 高章 准教授

秋吉 浩志 准教授

宮崎 武 講師

ディンダ プラマンタ 助教

幸野 憲道 教務課長

### 取り組み内容

令和4年度の当該委員会の活動は以下の通りである。

- 1) KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの啓発活動
- 2) 文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）」認定に係る申請
- 3) 令和4年度前期・後期での KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル・応用基礎レベル）修了者の認定および修了証授与
- 4) KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル・応用基礎レベル）修了者に対するアンケートの実施

1)に関しては、令和4年度前期在学生オリエンテーション（2，3，4年生対象）および新入生オリエンテーション、令和4年度後期在学生オリエンテーション（1，2，3，4年生対象）において学生に対して周知徹底を行ったほか、履修モデル等を印刷したプリントを配布した。

2)に関しては、令和4年度より申請開始となった文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）」に対し、本学の KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）の認定を受けるため、申請書等の準備、申請を実施した。その結果、8月24日付け文部科学大臣名にて、本学の「KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」の応用基礎レベルが認定された。

3)に関しては、半期ごとに当該委員会でリテラシーレベル・応用基礎レベル双方の認定に係る判定会議を実施し、修了者の判定および修了証の授与を実施した。

前期については、応用基礎レベル4名、リテラシーレベル3名、後期は応用基礎レベル6

名、リテラシーレベル9名が修了認定を受けた。

4)に関しては、修了証を授与する際、Google Formsにて作成された修了者アンケートのQRコードを配布し、リテラシーレベル・応用基礎レベルそれぞれについて回答を求めた。

### 自己評価

令和4年度は応用基礎レベル10名、リテラシーレベル41名の修了者が出た。これは前年度から大幅な増加であり、当該年度の委員会による広報活動の成果が出たものと判断している。また、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」の認定を受けることができ、本学の教育プログラムの需要が今後高まるのではないかと考えられる。

### 改善・向上方策（将来計画）

今後はリテラシーレベルの全学生修了を目標とし、応用基礎レベルの修得を目指す学生を増やすことが必要である。そのためには、修了者の卒業後の動向などの調査をはじめ、修了者に対する本学教育プログラムに関する調査を継続する。

また、令和5年度の当該委員会の活動計画は以下の通りである。

- 1) KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの啓発活動
- 2) カリキュラム改訂に伴う KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）の科目変更手続き
- 3) 令和5年度前期・後期での KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル・応用基礎レベル）修了者の認定および修了証授与
- 4) KIIS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル・応用基礎レベル）修了者に対するアンケートの実施